

第4回碧南市住生活基本計画策定委員会 会議録

日時 令和2年7月29日（水）午前10時00分～午前11時40分

場所 碧南市役所 2階 談話室2、3

出席者 小松 尚、杉浦 邦俊、小笠原 良子、禰宜田 知司、高松 透、鈴木 良之、
杉浦 盛夫、岡田 昌之、岡田 雅弘、西尾 佳紀、中村 正典

事務局 小笠原 盛明、安田 浩二、筒井 千賀子、加藤 寿典、長崎 裕司

傍聴者 なし

【委員長あいさつ】

【事務局】

(1)計画策定までのスケジュールについて説明。

【事務局】

(2)前回までのご意見、修正内容について説明。

【鈴木委員】

64 ページの図 7-3 で生活利便性を高める商業施設の誘致とは、コンビニなどを想定しているのか。碧南市では中央駅がイメージしやすいが、複合商業施設を想定しているのか。

【事務局】

コンビニを含む店舗やスーパーなどの商業施設をイメージしている。

【小松委員長】

基本目標を「住まい・まちづくり」に修正したが、全体的に住まいの話が多い。まちづくりに関する点が色々あるのでは。基本目標1では若年世帯・子育て世帯等が住みやすい、安全・快適な魅力あるまちづくりを目指すところがあるが、例えば公園だけでいいのか。保育所や幼稚園、学校など教育の場などが無いと逆に選ばれない。商業施設についても利用者や居住者ニーズを思い浮かべて反映するよう検討してほしい。

新型コロナウイルスに対応した施策の基本方向が、「新しい生活様式」の住まい・まちづくりとして、基本目標4に記載されている。新しい生活様式には既存住宅利用は当然あると考えられるが他目標でも関わることもあるのでは。基本目標1にもあるべきだと思う。新型コロナウイルスで、集合住宅よりも余裕のある郊外住宅がいいとか、リモートができれば、遠くでも仕事ができる時代になる可能性は高い。世代認識の違いは多少あるが、そういうことをまちづくりに取り込むかが問われる。「新しい生活様式」を他テーマでも取り入れるよう検討してほしい。

【杉浦邦俊委員】

狭あい道路に関係するが昭和45年頃に旧市街地が市街化区域に入ったが、その時期からドーナツ化現象が起り現在も続いている。旧市街地は高齢者が多く住む地域になってしまっていて今後市がどのように取り組んでいくか。62 ページの図をモデルにして何をすべきか、狭あい道路を廃止して幹線道路をつくるのか、メッシュ分けして狭い道を残すのか

など市でしっかり決めてほしい。若者が郊外に出ていくことが懸念される。区画整理で新しい道路をつくるなど基盤整備ができないか。

以前、子育て支援の次世代育成の関係での計画策定の中で「こども生むなら碧南市、子育てするなら碧南市」と新しいキャッチフレーズをつくったが、碧南市は子育てしやすいと噂が広まり子育て世帯が増えた。他には無い新しいことをすれば見てくれる人は必ずいる、ぜひ取り組んでほしい。

【事務局】

狭あい道路は建築課で相談を受付しているが、長年解消には至っていない。62 ページの記載のとおり後退用地を寄附すれば測量費を市が負担し、市が後退用地の舗装等整備する方針で進めている。今後は地区全体の測量をして、地区毎でどうしていくかと方向転換しようとしている。地区計画ではないが、町単位でどうするかを検討し、密集市街地の解消を図りたいと考えている。空き家は除却補助の件数が伸びている。

子育ての定住促進で、新しい取り組みにより若者が増やすという意見は参考にします。

【杉浦盛夫委員】

47 ページ令和 12 年度の人口フレームが 75,000 人とあるが、年齢別の内訳が資料で見当たらない。計画では若い人達を呼び込もうとしているが、最近が高齢者がどんどん増えて若年層が減っているという状況だと思うが、詳しく内訳を仕分けして、みなさんに意識を共有してもらえる資料にしてほしい。若い世代を呼び込むために実際にどのようなことを考えているのか。それが無いと実現性が無いと思う。

【事務局】

75,000 人の内訳について生産年齢人口が 15 歳から 64 歳で 47,400 人、65 歳以上で 18,200 人、15 歳未満が 9,400 人となっている。計画に掲載するかは検討する。若者世帯をどうやって呼び込むかは具体的には無いが、例えば 63 ページに重点施策の定住化促進対策で、県では多世代同居リフォームを推進しているが、アンケートでは若い人は同居を望まないという結果が出ており、どのように進めるかは課題。子育てしやすい街として PR を進めたい。

【小笠原委員】

若い人が碧南市に住まない理由は大きな商業施設が無いこと。若い人は西尾、安城、刈谷、名古屋など他市へ買い物に出かけてしまい、碧南市にいる理由があまり無い。64 ページに駅前に商業施設をつくり賑わいと言われるが、碧南の人は買い物というと市外に行ってしまう。若い人は小さい店には買い物に行かないし、やはり魅力がある店が少ない。先ほど駅近くにコンビニと言われたが、本当は大きな複合施設を望んでいるのではないか。

同居について子育て世帯でよく言われるのは、子は親に遠慮して、親は子に遠慮する。お互い気を使って生活する。やはり単独世帯で年寄りや若者は年寄り、若者は若者でそれぞれの家がいいと言われる。子育てで困るのは保育のこと。朝仕事の前に保育園に子供を預け、仕事が終わって迎えに行く生活なので、保育時間の延長や学童保育があると助かる。医療費も中学校まで無料化など、子育てしやすい環境を子育て世帯は望んでいる。親に子供を

預けて謝るよりも、保育料を払って子供を迎えに行く方が気持ちいいと子育て世帯は言われる。そういう福祉施策をしながらお金や親戚の問題を解決した方が若い世帯が住みやすいと思う。

【建設部長】

確かに大規模な商業施設は市外ということがあって、ショッピングセンターを碧南市に誘致してほしいと若者世代からアンケート結果が出ているのは事実。商売という面で、市の南は海であり商圈として狭く、大規模施設の誘致は難しいのが碧南市の特徴。ただし、生活必需品で残すべき部分もあり、駅中心の話が出たが、商業を維持することは必要。

碧南市は先進的に子育て施策をしていて、他市と比較しても子育てしやすい。アンケート結果でも全国的に上の方で、県内 10 位に入っている。子育て施策を住生活計画にも記載するのか、子育て計画や総合計画に記載すべきか判断する必要があるが、しっかり PR したい。多世代同居はなかなか進まないが、近居という方法もある。隣や近くに住む施策として記載してもいいのでは。

生産年齢に仕事があることで、職場に近い場所に若者が住む。特に碧南市は製造業が多くテレワークではなかなか仕事はできない。製造業で職場近くに住むこともあり、工業誘致により若者を呼び込みたい。特に碧南市は土地が安く手に入りやすい。そういった特徴を記載してもいいと思う。

【岡田昌之委員】

農協で西三河 5 市を担当しているが、刈谷市や安城市は地価が高い。住宅と一緒に土地を探す人も多いが、刈谷市や安城市の地価が高くて土地取得できない人が、碧南市、高浜市、西尾市で土地を求めることが多い。子育てするには碧南市は静かでいいと言う人もいる。個々のニーズがあり、計画に全てを記載するのは難しい。コロナを経験してタブレット端末で授業をする学校もあり、教育での工夫も取り入れてはどうか。

コロナの影響で今年は住宅ローンが組めるが、来年は年収が減り借入できないケースもある。住宅建てるなら今年中という考え方はどうかと思うが、不動産業はコロナの影響が来年度以降も相当出ると思う。

【事務局】

(3) ア 地域別住宅施策の基本方針と展開方向について説明。

【鈴木委員】

西端地域で工業用地の記載がないが、住生活計画に載せる必要はないか。都市マスには記載されていたと思うが、工業用地が整備されれば、そこに住む人も増えるのでは。

【杉浦邦俊委員】

最近外国人で住宅を取得する人が多くなり、先日 5 件建売りが出ていて、内 4 件に外国人が住む。問題は町内会に入らないし伝達方法も無い。強制で町内会に入る仕組みがあればありがたい。30 年後にはその人達の子供が大きくなり地区にも慣れると思うが、今は騒いでバーベキューをしている。どうも日本人は委縮している。

【高松委員】

西端地区は外国人が増えているのか。西端地区は子供が少ないし、宅地も少ない気がする。大浜地区は区画整理で宅地が増えている。西端地区は宅地を増やす必要があると思う。高浜市に近く、市外への行き来や仕事で便利そうなので人が入る気もするが。

【杉浦邦俊委員】

小学校の周りには家がたくさんある。下の方も住宅が増えて町内会の区割を変える検討をしている。消防団が絶対数が足りない中で、10人集めるというのは無理で、いつも喧嘩になっている。子供は少ないが、学年で当初2クラス予定だったが急に増えて3クラスになり喜んでいて。

【建設部長】

先程、工業用地の話があったが、西端地区でも住宅地を検討している。道路が抜けた荒居町付近は都市マスで住宅地として検討する場所になっており、住生活計画に記載して西端地区に新しい住宅地を検討してもいいと思う。都市マスには位置付けしていて、どういった整備をするか今後検討していく。今は調整区域なので住宅は建たないが、地区計画により区画整理をすることになれば住宅地にすることも可能になる。

【高松委員】

68ページの④住宅施策の展開方向で、「生活の利便性を高めるために幹線道路沿いは日常サービス施設の充実を促進します。」はどういう意味か。具体的でなく、当たり障りない表現になっていないか。他ページにも同じ文章がある。計画を基に施策を進めると思うので、先程の住宅地の話を記載してもいいのでは。

【鈴木委員】

「生活の利便性を高めるために幹線道路沿いは日常サービス施設の充実を促進します。」とは、行政主導として考えているか。

【小松委員長】

日常サービス施設とは何を指しているのか分からない。

【事務局】

(3) イ 計画の実現に向けてについて説明。

【小松委員長】

9.2 実施プログラムで実施時期の短期と中長期はどのくらいを目安にしているか。

【事務局】

短期は5年で中長期を10年として考えている。

【小松委員長】

短期の位置付けは積極的に施策を打つ予定のものか、何か理由があり喫緊の課題になっているものか。

【事務局】

相談体制の充実は早急に進められるものなので短期として考えている。また低額所得者の

居住の安定の確保や耐震性能の向上は命に関わることなので短期としている。

【小松委員長】

実施時期の表の見方を説明しないと誤解される可能性がある。耐震性能の向上は防災面では中長期で考えることもできる。隣の実施主体はほとんど〇が付いているが、逆に抜けた箇所はやらなくてもいいのか。次ページの成果指標値の設定と実施スケジュールとのギャップが大きい。81 ページでは基本目標に応じて、それぞれ進め方をタイムスケジュールで考えているが、次ページを見ると成果指標値の項目だけを達成すればいいと誤解される。数値目標を立てやすいものだけが項目となっており、数値目標を立てるには馴染まないものは外されているが、大事なことはいっぱいあると思う。項目で出した瞬間に大事なことがこぼれてしまっていないか。10年後に11項目がクリアできて全て計画が達成できましたというのは変な感じがする。成果指標値を設定することが何故いいのか、何故これにしたのか説明があるのでは。ドイツでは成果目標は行政の中ではバックデータとして持っているが社会的には公開しない。それは数値化できるものしか出せないのが理由。書かないといけない事情があるなら、何故この指標にしなければならないのか説明してほしい。相談窓口の設置が目標になっているが、設置が目標ではなく、設置したことにより、どんな効果が得られたかが重要。達成しやすいものが目標になっていないか。

【鈴木委員】

80 ページの下の図で地域団体と住宅関連事業者というのは具体的には何か。地域団体と住宅関連事業者の間に矢印で情報交換協力となっているがどういったことか。

【事務局】

地域団体は自治会や町内会、住宅関連事業者は不動産屋を指している。なかなか難しいかもしれないが、住宅に困っている人がいれば地域団体から情報提供するようなイメージをしている。

【小松委員長】

委員のみなさんの所属団体は地域団体に入らないのか。説明文を読むと地域団体に入っている気がするが、住宅確保要配慮者への支援だけではなく色々な方面から協力をお願いすることができると思う。表現を工夫するか各団体の性格を説明するような文章にした方がいいと思う。碧南市内に事業所を構えているような企業は入ってこないのか。広い工業用地があって従業員も碧南市民なら何かできる可能性があるのでは。今日の議論を聞いてみると企業も大事なプレーヤーになる気がする。

【事務局】

その他について、第5回碧南市住生活基本計画策定委員会は令和2年10月頃開催を予定。

【閉会】